



愛隣幼稚園.....

園だより

.....20.6月

始めの一步は焦らずに

ながーいお休みでした。未知の〈おやすみ〉にみんながうろたえました。日本のリーダーも同様で、多額の税金を投入した〇〇〇マスクはまだ我が家に届いていません。降ってわいた9月入学問題。(悪くないかもしれませんが、それって今じゃないよねって“現場”は慌てました。)どさくさまぎれのルール変更審議にも違和感を覚え、今、考えなければならないことに力を注ぎ、必要な支援を迅速にとお願い続けた3ヶ月でした。

愛隣は力不足だったかもしれませんが、先生たちが頑張ってくれました。ほぼ2ヶ月、平日連日の動画配信！(拍手) 細い線ですが、なんとか子どもたちと幼稚園が繋がりが続いていられたかなあと思っています。“お手紙届け隊”も隔週でしたが、みんなの家にお便りやプレゼントを運びました。みんなに早く会いたい気持ちも合わせて運びました。少しでも子どもたちとお家の人たちの応援ができたでしょうか。

でも一番頑張ってきたのは、ずっと stay home になってしまった子どもたちとお家の皆さんです。大人もストレスを感じてきましたから、子どもはもっとです。今、子どもたちはどんな様子ですか？先生たちが電話をかけて聞き取った中に「言葉が乱暴になっています。」「力が余っています。」「反抗期がきたみたいです。」等のお母さんたちの声がありました。困ったなあと思いますが、分かりやすくもいいのかもしれませんが。逆に静かにあまり目立たない形で変化が現れていることもありそうです。妙におとなしくなってしまうたり、自信のない様子であったり、食欲がない元気がない(病気ではないけれど)等の姿です。もちろん、家に居た時間が、子どもたちの良い時間になったこともたくさんあるはずですが。しかし幼稚園が始まる今だからこそ、大人は子どもの様子を丁寧に見てあげてほしいと思います。「よし、始まるぞ！待ちに待った幼稚園だ！日常を取り戻すぞ！」と大人が焦って子どもの背中を強く押しすぎないようにしてください。休園中、私たちは子どもたちの今の姿を想像しながら、これからの保育を考えていました。卒業式でつばさ組を送り出すことができず、クラスの名前決めもできないまま、ぼんやりと終わってしまった年中の1年。進級した2ヶ月をクラスの仲間とも過ごせず、小さい組を迎えることも出来ずにいる年長の1年の始まり。大きい組になった子どもたち一人ひとりが、今、どこに立っているのかを私たちはまず、確かめたいと思っています。子どもたちには幼稚園の生活をひとつずつ思い出して欲しい。キミたちには仲間がいること。力を貸し共に楽しんでくれる先生もいること。ひとり一人が力を発揮し、力を合わせると楽しいことができるということ。それはとても嬉しいことで、新しい力がムクムク湧いてくるということ。自分はいいと思えること。仲間はいいと思うこと。きっと年中の終わり頃には、みんなが同じではないけれど、こんなことを感じていたはずなのです。やっと年長組としての1歩を踏み出せる時がきましたから、焦らずしっかり踏み出す足元を固めていきましょう。大丈夫！時間はたっぷりあるのです。大人の時間はどんどん加速していますが、思い出してください、昔、1年はあんなに長かったではありませんか。じっくりやってみましょう。さて、ばら組になった子どもたち。きっと始めは、「おや？たんぼぼ組？」と思う姿かもしれません。仕方ないと大人は腹をくくっていきましょう。これは少しの後戻り。この子たちだって幼稚園の楽しさを、しっかり思い出したら自分の足でちゃんと歩みだしますから。そして「ようこそ、たんぼぼ組のみなさん！」10ヶ月もありますから、楽しんでいきましょうね。

1日も早くいつもの幼稚園生活に戻りたいと願います。でも、この始まりは慎重にいきたいと考えています。私たちは、子どもが自由に、主体的にあそび、仲間と共に幼稚園生活を創り出していくことを願って保育をしています。そこにあるのは寄り添い、頭を寄せ合いながら力を合わせ、知恵を出し合い、笑いあったり、喧嘩したりする子どもたちの姿です。とてもじゃないけどソーシャルディスタンスなんて保てない。でも、それが幼児の生活です。再開される園生活でも、これを保障していきたいと考えています。一方で感染予防をないがしろにして保障するものではないことも自覚しています。それで、愛隣幼稚園はゆっくり慎重に規制を緩めていきます。子どもの子どもらしい生活を守り、安全を守りながら日常に戻っていきたく思います。

「では、来週、幼稚園でお目にかかりましょう！」